

PAT-NO: JP407160200A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 07160200 A  
TITLE: STICKING TAG AND CONTINUOUS PAPER FOR FORMING  
INSERT TAG  
PUBN-DATE: June 23, 1995

## INVENTOR-INFORMATION:

NAME  
SUGITA, TAKESHI

## ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
KK TOKYO MARK SHOKAI	N/A

APPL-NO: JP05305027

APPL-DATE: December 6, 1993

INT-CL (IPC): G09F007/00, G09F007/08

## ABSTRACT:

PURPOSE: To enhance display performance and to improve a handling property by forming a sticking tag of a thin material to a slender shape, providing the bottom end in its longitudinal direction with a wedge-shaped sticking part, stating a name, etc., of merchandise in vertical writing at a main statement part and stating the price, etc., of the merchandise in horizontal writing at an auxiliary statement parts.

CONSTITUTION: Synthetic paper consisting of a polypropylene, vinyl chloride, etc., or hard film paper are utilized for the material of the sticking tag adequate for use for the merchandise consisting of plants implanted in flowerpots and the entire part of the sticking tag is formed to the

slender shape. The sticking tag is provided with the wedge-shaped sticking part at the bottom end in the longitudinal direction to permit easy sticking into the soil. The sticking tag is provided with the horizontally long auxiliary statement part 4 of a narrow area in the upper part of the slender shape, where the price, etc., 5 of the merchandise are stated relatively small in horizontal writing. The sticking tag is provided with the longitudinally long main statement part 2 thereunder and the name, etc., 3 of the merchandise are stated relatively large in vertical writing in this part. A cutting line 6 consisting of perforations is formed between both statement parts 2 and 4. The continuous paper for forming the sticking tags is arranged in parallel with such sticking tags separably by the plural perforations.

COPYRIGHT: (C)1995,JPO

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-160200

(43)公開日 平成7年(1995)6月23日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

G 0 9 F 7/00  
7/08

識別記号

序内整理番号  
M 7610-5G  
7610-5G

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数3 O L (全 5 頁)

(21)出願番号

特願平5-305027

(22)出願日

平成5年(1993)12月6日

(71)出願人 391062551

株式会社東京マーク商会

東京都千代田区外神田6丁目14番8号

(72)発明者 杉田 健

東京都千代田区外神田6丁目14番8号 株式会社東京マーク商会内

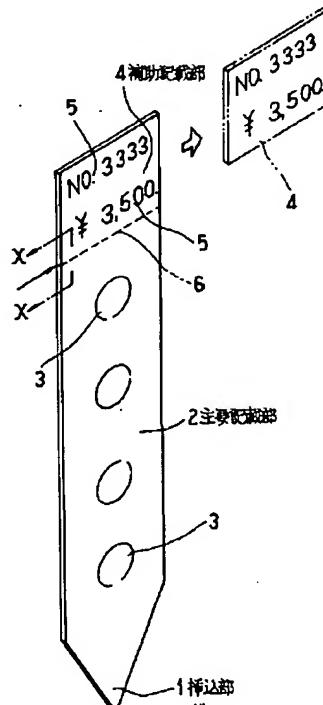
(74)代理人 弁理士 吉田 芳春

(54)【発明の名称】 挿札および挿札形成用連続用紙

(57)【要約】

【目的】表示性能を高め取扱性を良好にする。

【構成】自然の折曲がりを阻止する保形性を有する薄性材料で細長形に形性され、長手方向の下端には楔形の挿込部1が設けられ、長手方向の下部には商品の商品名等3を縦書で記載可能な広い面積の縦長形の主要記載部2が設けられ、長手方向の上部には商品の金額等5が横書で記載可能な狭い面積の横長形の補助記載部4が設けられてなる。



1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 自然の折曲がりを阻止する保形性を有する薄性材料で細長形に形成され、長手方向の下端には楔形の挿込部が設けられ、長手方向の中間部には商品の商品名等を縦書で記載可能な広い面積の縦長形の主要記載部が設けられ、長手方向の上部には商品の金額等が横書で記載可能な狭い面積の横長形の補助記載部が設けられてなる挿札。

【請求項2】 主要記載部に対して補助記載部を切断または剥離し可能にしてなる請求項1記載の挿札。

【請求項3】 自然の折曲がりを阻止する保形性を有する薄性材料で細長形に形成されるとともにコンピュータのプリンタ等で印字可能な印字特性を有し、長手方向の中間部には商品の商品名等を縦書で記載可能な広い面積の縦長形の主要記載部が設けられ、長手方向の端部には商品の金額等が横書で記載可能な狭い面積の横長形の補助記載部が設けられてなる挿札を備え、この挿札が用紙送り方向に直交する線に沿って短手辺を揃えて切断分離可能に並列配置されてなる挿札形成用連続用紙。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、挿札、挿札形成用連続用紙に関する。さらに詳しくは、商品の商品名、金額等を記載して商品自体または商品の包装その他の近接した部位に挿込み取付けされる挿札の表示性能、取扱性に係る改良と、この挿札を製造する材料として量産性、価格性において好適な挿札形成用連続用紙とに関する。

## 【0002】

【従来の技術】 従来、挿札としては、例えば、図10に示すものが知られている。

【0003】 この従来の挿札は、商品の商品名、金額等を記載する横長方形の表示部aの下端に楔形の挿込部bを突出形成してなるもので、商品の販売中には商品自体または商品の包装その他の近接した部位に挿込み取付けされて商品の商品名等の必要事項を表示する表示物として使用され、商品の販売後には会計処理、在庫処理等の伝票類として使用される。

【0004】 また、この従来の挿札は、プラスチック板または木板等から表示部a、挿込部bを含む形状に切断加工して製造される。そして、表示部aには手書きで記入されていた。

## 【0005】

【発明が解決しようとする課題】 前述の従来の挿札では、表示部aに商品の商品名や金額等が渾然と記載されているため、表示部aの表示内容を一見して正確に知ることができず、表示性能が低いという問題点がある。また、商品の販売後に伝票類として使用する際に表示部aから突出した挿込部bが邪魔になるため、会計処理等を迅速に行うことができず、取扱性が悪いという問題点がある。

2

【0006】 さらに、プラスチック板や木板等の表示部aに手書きで記入していたために、能率が悪いという問題点があった。同一内容の挿札を量産する場合には、挿札1枚づつへ印刷機で枚葉印刷しなければならぬため、少量多品種に対してはコスト高になって対応できないという問題点がある。

【0007】 本発明は、このような問題点を考慮してなされたもので、表示性能が高く取扱性の良好な挿札を提供することと、表示部に同一内容が記載された挿札を安価に量産可能な挿札形成用連続用紙を提供することを課題とする。

## 【0008】

【課題を解決するための手段】 前述の課題を解決するため、本発明に係る挿札は、請求項1に記載のように、自然の折曲がりを阻止する保形性を有する薄性材料で細長形に形成され、長手方向の下端には楔形の挿込部が設けられ、長手方向の中間部には商品の商品名等を縦書で記載可能な広い面積の縦長形の主要記載部が設けられ、長手方向の上部には商品の金額等が横書で記載可能な狭い面積の横長形の補助記載部が設けられてなる手段を採用する。

【0009】 この場合に、主要記載部に対して補助記載部を切断または剥離し可能にすることができる。

【0010】 また、本発明に係る挿札形成用連続用紙は、請求項3に記載のように、自然の折曲がりを阻止する保形性を有する薄性材料で細長形に形成されるとともにコンピュータのプリンタ等で印字可能な印字特性を有し、長手方向の中間部には商品の商品名等を縦書で記載可能な広い面積の縦長形の主要記載部が設けられ、長手方向の端部には商品の金額等が横書で記載可能な狭い面積の横長形の補助記載部が設けられてなる挿札を備え、この挿札が用紙送り方向に直交する線に沿って短手辺を揃えて切断分離可能に並列配置されてなる手段を採用する。

## 【0011】

【作用】 前述の手段によると、主要記載部に商品の商品名等を縦書で記載し、補助記載部に商品の金額等を横書で記載することになる。この結果、縦書、横書の記載方向の相違から表示内容を一見して正確に知ることができるようになる。また、小さな横長形の補助記載部のみを分離して伝票類として使用することができる。

【0012】 さらに、挿札形成用連続用紙をコンピュータのプリンタ等で印字すると、挿札の並列形態から多数枚の挿札の表示部（主要記載部、補助記載部）に同一内容を記載することができる。そして、印字された挿札形成用連続用紙から分離して挿札を得ることができる。

## 【0013】

【実施例】 以下、本発明に係る挿札および挿札形成用連続用紙の実施例を図1～図9に基いて説明する。

【0014】 図1～図6は、本発明に係る挿札の第1実

施例を示すものである。

【0015】この実施例では、図6に示すように、植木鉢10に植栽された植物20からなる商品について使用するに好適なものをしてある。

【0016】この実施例の材質は、自然の折曲がりを阻止する保形性を有する单層、複数層の薄性材料からなる。即ち、図6に示すように、植木鉢10に収容されている土30に挿込まれて自立できるような保形性が必要である。さらに、植木鉢10が屋外に設置された場合の雨や土30に含まれている水分、肥料等に対抗するためには、一定の耐候性、耐薬品性を有することが必要である。さらに、適当な手段で文字、数字等を記載できるような印刷特性を有する必要がある。具体的には、ポリプロピレン、塩化ビニール等の合成紙や硬質フィルム紙を利用することができるが、合成紙「ユポ」（商品名、王子油化成紙（株）製）が好適である。

【0017】この実施例は、図1に示すように、全体形状が細長形に形成され、土30に挿込みやすいように長手方向の下端には楔形の挿込部1が設けられている。

【0018】また、細長形の長手方向の中間部には、広い面積の縦長形の主要記載部2が設けられている。この主要記載部2には、その形状、大きさから商品の商品名等3（商品名、产地、種類等）を縦書で比較的大きく記載することができる。

【0019】また、細長形の長手方向の上部には、狭い面積の横長形の補助記載部4が設けられている。この補助記載部4には、その形状、大きさから商品の金額等5（金額、整理番号、バーコード等）を横書で比較的小さく記載することができる。

【0020】さらに、主要記載部2、補助記載部4は、ミシン目からなる切断ライン6で連結され、簡単に分離可能にすることが望ましい。なお、この切断ライン6は、図3に示すような切込溝、図4に示すような折曲条、図5に示すような複数層の一部層の除去溝等とすることも可能である。

【0021】この実施例によると、主要記載部2、補助記載部4に必要事項を印刷等の手段で記載して、植木鉢10に収容されている土30に挿込部1を挿込んで立設することにより、表示物として使用される（図6参照）。

【0022】表示物として使用されている状態では、主要記載部2、補助記載部4の商品名等3、金額等5の縦書、横書の記載方向や大きさの相違から、一見して商品名等3、金額等5を夫々正確に知ることができる。

【0023】また、商品が販売された後には、主要記載部2から補助記載部4のみを分離して、補助記載部4を会計処理、在庫処理等の伝票類として使用可能となる。

【0024】伝票類として使用する場合では、補助記載部4が小さな横長形で金額等5が横書であるため、機械的、電気電子的、光学的名手段による処理が容易とな

る。特に、従来のような突出構造がないため、会計処理、在庫処理等処理を迅速に行うことができる。

【0025】なお、補助記載部4を分離した後には、主要記載部2をそのまま残しておくことで、商品名等3を引き続き表示する表示物として機能させ、商品の購入者の商品知識の便に供することができる。

【0026】図7は、本発明に係る挿札の第2実施例を示すものである。

【0027】この実施例では、補助記載部4を前記切断ライン6と同様の構造により複数段構造としてある。

【0028】この実施例によると、補助記載部4を2つに分離することができ、補助記載部4の伝票類としての機能性を高めることができる。図示するように、補助記載部4の所望の位置にバーコード表示部7を切断ライン6を介して付加することができる。

【0029】図8、図9は、本発明に係る挿札形成用連続紙の実施例を示すものである。

【0030】この実施例では、両側耳部40に送孔50が形成されたコンピュータ等の連続用紙と同様の構造からなる挿札形成用連続紙8を示してある。

【0031】この挿札形成用連続紙8の材質は、前述の挿札の材質に加えてコンピュータのプリンタ等で印字可能な印字適性が必要である。なお、前記合成紙「ユポ」は、このような材質要件をも備えている。

【0032】この挿札形成用連続紙8には、前述した挿札の複数の形状と主要記載部2、補助記載部4の間の切断ライン6とがミシン目等の分離ライン9で区画され並列されている。この区画並列は、挿札形成用連続紙8の用紙送り方向Aに直交する線に沿って挿札の短手辺を揃えた配置になっている。なお、この配置の1列のブロックは、挿札形成用連続紙8の用紙送り方向Aに多数連続している。

【0033】この挿札形成用連続紙8を用いてコンピュータのプリンタ等で印字すると、プリンタヘッド60が挿札形成用連続紙の用紙送り方向Aに直交する線に沿って走査することになる。従って、主要記載部2、補助記載部4に記載される商品名等3、金額等5の大きさや縦書、横書の記載方向が相違しても、商品名等3、金額等5を連続して印字することができる。図1に示すように、補助記載部4の金額等5を小文字で横書とし、主要記載部2の商品名等3を大文字で縦書として印字することが通常のラインプリンタで行われる。

【0034】コンピュータのプリンタ等で印字した後には、分離ライン9から分離することにより、同一内容の商品名等3、金額等5が記載された多数枚の挿札を得ることができる。従って、従来のように挿札1枚づつへの切断加工と1枚づつの印刷を行わなくてすみ、製造される挿札の価格を低くすることができる。

【0035】以上、図示した実施例の外に、挿札形成用連続紙8については、耳部40、送孔50がない構造の

5

ものを使用する実施例も可能である。また、挿札形成用連続紙8には、挿入部1を有せずに、矩形状あるいは三角形状等の挿札形状で実施することも妨げないものである。

## 【0036】

【発明の効果】以上のように本発明に係る挿札は、主要記載部、補助記載部の大きさ、形状から縦書、横書で記載方向を相違させることができるために、表示内容を一見して正確に知ることができるようになり、表示性能が高くなる効果がある。

【0037】さらに、本発明に係る挿札は、補助記載部の大きさ、形状、記載方向から伝票類としての機能性が高くなるため、取扱いが良好になる効果がある。

【0038】さらに、本発明に係る挿札形成用連続用紙は、挿札形成用連続用紙における挿札の配列から、コンピュータのプリンタ等で同一内容を連続的に印刷し分離して挿札を得ることができるため、表示部に同一内容が記載された挿札を安価に量産可能である効果がある。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る挿札の第1実施例を示す斜視図である。

【図2】X-X線拡大断面図である。

【図3】図2の変形例を示す断面図である。

【図4】図2の他の変形例を示す断面図である。

【図5】図2のさらに他の変形例を示す断面図である。

【図6】図1の使用状態の斜視図である。

【図7】本発明に係る挿札の第2実施例を示す斜視図である。

【図8】本発明に係る挿札形成用連続用紙の実施例を示す斜視図である。

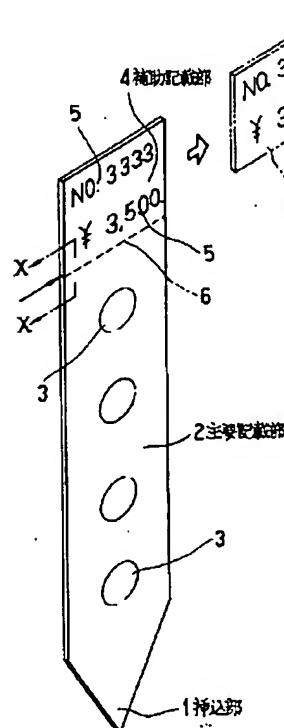
【図9】図8の印刷中の平面図である。

【図10】従来例に係る挿札を示す斜視図である。

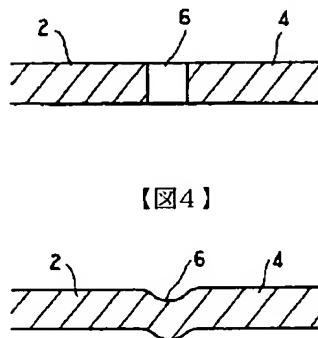
## 【符号の説明】

1	挿込部
2	主要記載部
3	商品名等
4	補助記載部
5	金額等
6	切断ライン
6, 9	バーコード表示部
7	挿札形成用連続用紙
8	送り方向
A	

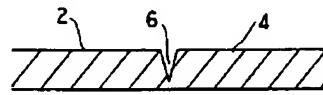
【図1】



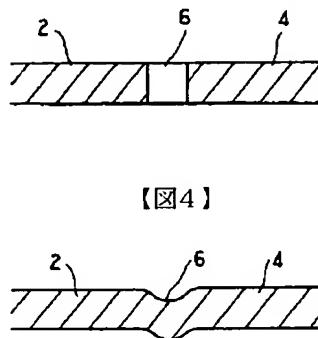
【図2】



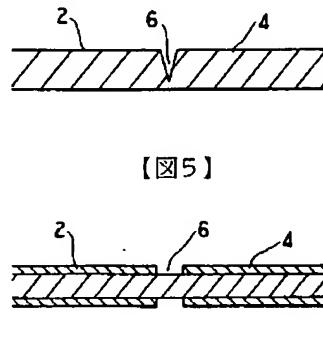
【図3】



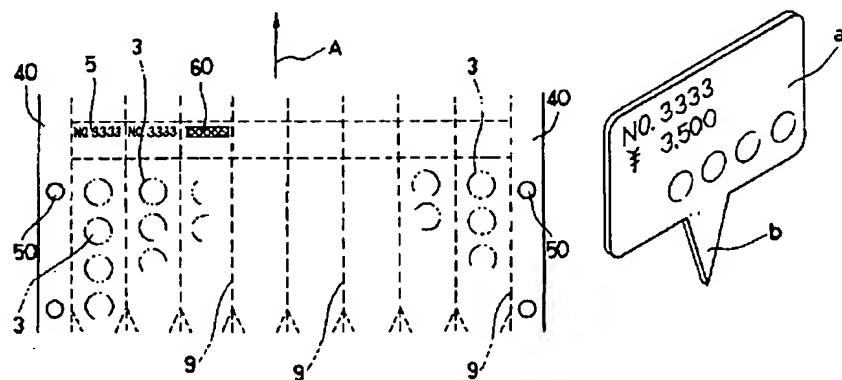
【図4】



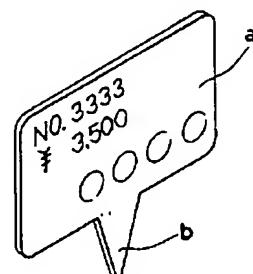
【図5】



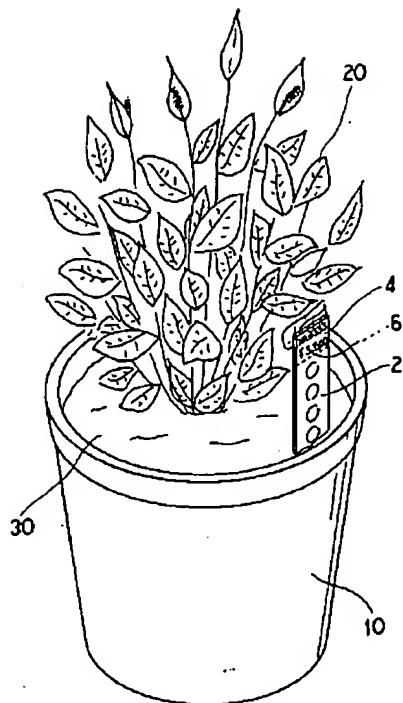
【図9】



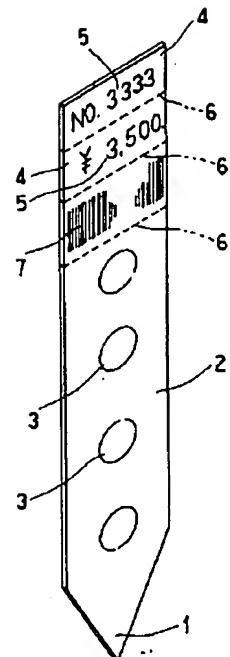
【図10】



【図6】



【図7】



【図8】

